【令和 7 年度公開実習・利用実績等一覧】

■ 概要

学部生向け、院生向けに 17 実習を全国公開実習として準備し、受講生を募集した。その中で担当教員急逝により2実習中止、受講希望があった 13 実習開講し、そのうち 11 実習で、学外から受講生を受け入れた。単位互換率が大学院生は 58.8%、学部生は 25.0%、全体としては 42.4%となり、受講生の半数近くが所属大学で単位認定されている。

■ 公開実習一覧

実習名		概要
1	高原原生生物学実習 （院生対象）	原生生物は、その系統的多様性から予想されるように、その生物学的特徴は極めて多様です。また、いまだ未知の現象、応用性に満ちた生物群です。この実習ではフィールドでサンプルを採集し、さまざまな原生生物を観察することでその多様性に触れ、原生生物の面白さと可能性を体感できます。2025/7/1-4 に菅平高原実験所で実施。受講生 2 名。（筑波大学生物学学位プログラム）
2*	系統地理学実習(分子生態学実習)(院生対象)	物種はこれまでの長い歴史の中で、地史的イベント、気候変動などを経験し、現在の集団の分布を形成しています。本実習では山岳フィールドでサンプル採取から遺伝解析実験など分子生態学的手法を用いて、対象種の集団遺伝構造を評価し、さらに過去の集団動態の歴史を推定します。これらデータから山岳生物の進化的歴史も考慮して保全および管理について考えます。2025/7/14-18 に菅平高原実験所で実施。受講生 3 名、うち共同利用大学 2 校、利用学生 2 名。（筑波大学山岳科学学位プログラム、信州大学大学院総合理工学研究科、東京農工大学農学府 農学専攻）
3*	森林水文・砂防学実習（学部生対象）	山岳科学センター井川演習林などをフィールドとして、森林流域での水・土砂流出の調査法を習得する。実際に計測されたデータを題材として、森林の水環境や、山地での土砂移動プロセスを理解し、流域環境のあり方や管理の課題について考察する。7/28-8/1 に井川演習林で実施。受講生 14 名、生命環境学群生物資源学類、生物資源科学部森林学科、大学院 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 環境科学学位プログラム 1 年）/7/28, 8/24, 12/12 に筑波実験林で実施。受講生 10 名、うち共同利用大学 1 校、利用学生 1 名。（筑波大学生物資源学類、日本大学生物資源科学部森林学科）

4*	動物分類学野外実習（学部生対象）	動物界の約 3/4 の種類数を占める昆虫類は、地球上最も繁栄した分類群といわれます。その全 32 目中 29 目の実物を野外で採集して、形態的・分類学的特徴をじっくり観察できる日本で唯一無二の実習です（残りの 3 目も標本で観察できます！）。昆虫とは何か、なぜ昆虫の多様性が高いのか、それらの答えがここにあります。2025/7/28-8/2 に菅平高原実験所で実施。受講生 16 名、うち共同利用大学 2 校、利用学生 2 名。（筑波大学生物学類、近畿大学、中部大学）
5*	節足動物学野外実習（院生対象）	節足動物はわれわれに最も身近であり、動物既知種の 3/4 を含む、 この地球上で最も繁栄している動物門です。本実習は、この節足動物 を対象とし、講義ならびに実際の野外観察・採集・標本作成を行うこ とにより、節足動物の分類・系統・形態に関する基礎的知識を得、系統分類学の実際を学びます。2025/7/28-8/2 に菅平高原実験所で実施。受講生 8 名、うち共同利用大学 2 校、利用学生 7 名。（筑波大学山岳科学学位プログラム、信州大学、福岡教育大学）
6*	土壌調査法実習（学部生対象）	土壌の横顔を観察します！　土壌の断面を見ることによって、どのようにしてこの土壌が生成されたのか、生成環境はどのような環境なのか、生物との関係は？　土壌の分類って何？　いろいろなことがわかります。菅平高原の土壌は火山灰からできた土壌です。日本は火山国であるため、世界ではまれな土壌が広く分布しています。その日本独特な土壌の世界をのぞいてみませんか？2025/8/6-8 に菅平高原実験所で実施。受講生 7 名、うち共同利用大学 1 校、利用学生 1 名。（筑波大学生物資源学類、東京農工大学農学部）
7*	山岳科学土壌調査法実習（院生対象）	土壌の調査法を基礎からしっかり学びます。山岳に分布する土壌の特徴を土壌生成分類学的視点から習得します。野外調査を中心にして、土壌調査のエキスパートを目指している人たちから山岳生態系の基礎をいろいろな視点から学ぼうとしている人まで、土壌生成環境の捉え方、土壌の特徴を様々な性質、たとえば、物理的な性質や化学的な性質、または生物的特徴について深く掘り下げて理解することができます。2025/8/6-8 に菅平高原実験所で実施。受講生 4 名。（筑波大学山岳科学学位プログラム、芸術学学位プログラム、東京理科大学創域理工学研究科）
8*	高原生態学実習（学部生対象）	何万年も前から日本に広がっていた草原が、人間による自然撹乱の抑制と草原利用の放棄によって、いま全国規模で急速に減っています。しかし菅平高原には、日本人に古くから親しまれてきた秋の七草など貴重な動植物が豊かな草原に残されています。この草

		原で、太古から繰り広げられてきた植物と訪花昆虫の結びつき、人間と草原との結びつきを学びます。2025/8/25-29 に菅平高原実験所で実施。受講生 23 名、うち共同利用大学 6 校、利用学生 7 名。（筑波大学生物学類、長崎大学水産学部、東京大学教養学部、北海道大学理学部、岩手大学農学部、京都大学理学部、立命館大学生命科学部）
9	山岳高原生態学実習（院生対象）	氷期・間氷期から日本に広がっていた半自然草原が、自然撹乱の抑制と人為撹乱（草原利用）の放棄によって、いま全国規模で急速に減っています。しかし菅平高原の草原には、古来から親しまれてきた秋の七草を含む希少種・絶滅危惧種が残されています。この草原で野外調査を行い、太古から繰り広げられてきた植物－訪花昆虫、人間－草原の相互作用を分析します。2025/8/25-29 に菅平高原実験所で実施。受講生 1 名。（筑波大学山岳科学学位プログラム）
10*	モデル生物多様性公開実習（学部生対象）	現代生物学の多くの研究は、酵母、ショウジョウバエ、シロイヌナズナ、ダニなどの「モデル生物」によって支えられています。この実習では、野外に出かけてモデル生物の多様な近縁種を探すことで、興味深い生命現象を進化させてきた自然の生態系と、そこでの多様な生き物との係わりを見出してみましょう。2025/9/1-5 に菅平高原実験所で実施。受講生 18 名、うち共同利用大学 1 校、利用学生 1 名（筑波大学生物学類、人間学群障害科学類、京都大学理学部）
11*	菌類分類学野外公開実習（学部生対象）	キノコ、カビ、コウボなど真菌類の多様性、系統分類の基礎を習得します。菅平高原実験所内の森林、草原、渓流フィールドに出て、キノコ等の大型菌類を採集し、実験室に持ち帰り、顕微鏡観察により、それらの形態や構造を詳しく観察して理解を深めます。またフィールドで採集した土壌や水サンプルの粗培養を行い、微小菌類（カビやコウボ）を検出し、分類培養技術についても学びます。 2025/9/22-26 に菅平高原実験所で実施。受講生 21 名、うち共同利用大学 2 校、利用学生 2 名。（筑波大学生物学類、京都大学理学部、弘前大学農学生命科学部）
12*	菌類多様性野外実習（院生対象）	推定総種数 150 万種にも及ぶ菌界（真菌類：ツボカビ門、接合菌門、子嚢菌門、担子菌門）は動物界と単系統群をなすオピストコンタ の一員である。現在では系統的には異質であると判明した粘菌類、卵 菌類も含め、従来“菌類（広義）”とみなされてきた生物群を、野外よ り採集、培養、分離して、観察するための技術を習得し、その多様性に ついて深く理解することを目指します。 2025/9/22-26 に菅平高原実験所で実施。受講生 7 名、うち共同利用大学 4 校、利用学生 5 名。（筑波大学山岳科学学位プログラム、

		九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻、早稲田大学先進理工学研究科生命理工学専攻、静岡大学、信州大学）
13*	Laboratory and Field Studies in Land Biology （陸域生物学実習） （学部生対象）	Let's get a feel for the ways of nature during the snowy season. We can see the footprints left behind by animals and birds searching for food.2026/2/23-2/27 に菅平高原実験所で実施。受講生 17 名、うち共同利用大学 1 校、利用学生 1 名。（筑波大学生物学類、東京大学農学部）

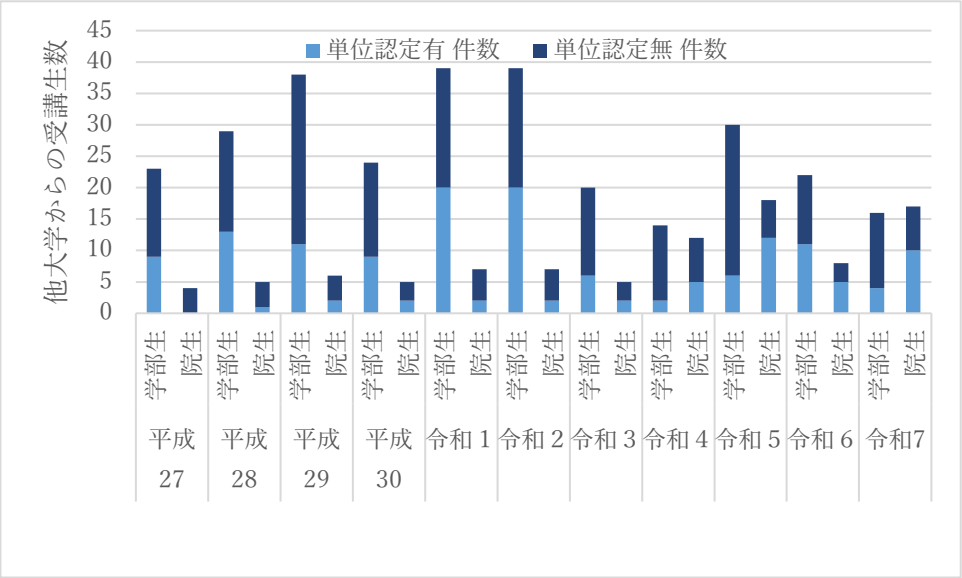
*他大学生が受講した実習

１－２. R7 年度の利用大学リスト

岩手大学、桜美林大学、京都大学、九州大学、近畿大学、静岡大学、信州大学、中部大学、東京大学、東京農工大学、東京理科大学、長崎大学、日本大学、弘前大学、北海道大学、立命館大学、早稲田大学

１－３. 全国公開実習に特別聴講学生として参加した学生数と単位互換状況

年度	内訳	受講生数	単位認定有		単位認定無	
			件数	%	件数	%
平成 26	学部生	7	2	28.6	5	71.4
	院生	1	0	0	1	100
平成 27	学部生	23	9	39.1	14	60.9
	院生	4	0	0	4	100
平成 28	学部生	29	13	44.8	16	55.2
	院生	5	1	20	4	80
平成 29	学部生	38	11	28.9	27	71.1
	院生	6	2	33.3	4	66.7
平成 30	学部生	25	9	36	15	60
	院生	5	2	40	3	60
令和 1	学部生	39	20	51.3	19	48.7
	院生	7	2	28.6	5	71.4
令和 3	学部生	21	6	28.6	15	71.4
	院生	5	2	40	3	60
令和 4	学部生	14	2	14	12	86
	院生	12	5	42	7	58
令和 5	学部生	30	6	20	24	80
	院生	18	12	66.7	6	33.3

年度	内訳	受講生数	単位認定有		単位認定無	
			件数	%	件数	%
令和 6	学部生	22	11	50.0	11	50.0
	院生	8	5	62.5	3	37.5
令和 7	学部生	16	4	25	12	75
	院生	17	10	58.8	7	41.2

同一人物であったとしても、複数の実習を受講した場合には別人として集計した。また、令和2年度は、感染症対策のため公開実習を中止した。